

Citation: Kelly SAM, Summerbell CD, Brynes A, Whittaker V, Frost G. Wholegrain cereals for coronary heart disease. *Cochrane Database of Systematic Reviews* 2007, Issue 2. Art. No.: CD005051. DOI: 10.1002/14651858.CD005051.pub2.

CRG名: Heart

[最新版\(英語版\)はこちら](#)

英語版最終改訂年月: 15 January 2007

Clib issue No.; N/U: 2007 issue 4; -

背景: 全粒穀物は冠動脈性心疾患(CHD)の危険因子に対して有益な効果があることを示すエビデンスが観察研究で増加している。

目的: CHD既往歴のある者またはCHDの危険因子のある者を対象に、全粒食品の消費とCHDの死亡率・罹病率およびCHD危険因子との関連性を評価しているランダム化比較試験(RCT)から、現時点でのエビデンスをレビューすることを主な目的とした。

検索戦略: CENTRAL(2005年第4号)、MEDLINE(1966年~2005年)、EMBASE(1980年~2005年)、CINAHL(1982年~2005年)、ProQuest Digital Dissertations(2004年~2005年)を検索した。言語に制約は設けなかった。

選択基準: CHDと危険因子に対する最低4週間の全粒食品または全粒穀物を含む食事の効果を評価しているランダム化比較試験を選択した。対象とした参加者はすでにCHDがある成人、また脂質異常、血圧上昇または肥満などのCHD危険因子がひとつ以上ある成人であった。

データ収集と分析: 研究チームのうちの2名が独自に試験の質と抽出したデータの質を評価し、必要な場合には、著者に追加情報を問い合わせた。

主な結果: 10件の試験が選択基準に適合した。見いだされた研究はいずれも、CHD死亡率またはCHDイベントや罹病率に対する全粒食の効果を報告していなかった。選択した10件のすべての研究は、CHD危険因子に及ぼす全粒食品または全粒食の効果を報告していた。研究期間は4週間から8週間であった。選択した研究のうち8件では、全粒穀物の成分はオート麦であった。8件の研究のうち7件では、オートミール食品の方が対照の食品よりも総コレステロールおよび低比重リポタンパク(LDL)コレステロールが低いことを報告していた。メタアナリシスを行った結果、オートミール食品で、総コレステロール(-0.20mmol/L、95%信頼区間(CI)-0.31~-0.10、p=0.0001)およびLDLコレステロール(0.18mmol/L、95%CI-0.28~-0.09、p<0.0001)が低かった。しかし、他の全粒穀物または全粒食に関する研究が不足していた。

レビューアの結論: 全粒オート麦に関する試験で首尾一貫した効果がみられたものの、この肯定的な所見は慎重に解釈すべきである。同定した試験の多くは短期間のものであり、質は不良で検出力は不十分であった。試験のほとんどは全粒穀物について商業上の利害関係のある企業から資金提供を受けていた。本領域で適切にデザインされ、十分な検出力を持った長期間におよぶランダム化比較研究が必要である。特に、オート麦以外の全粒食品と全粒食に関するRCTが必要である。

(監訳 上塚芳郎)

翻訳公開日: 08年3月19日

ご注意: この日本語訳は、臨床医、疫学研究者などによる翻訳のチェックを受けて公開していますが、訳語の間違いなどお気づきの点がありましたら、Minds事務局までご連絡ください。なお、コクラン・ライブラリは年4回改定版が発行されます。Mindsでは最新版の日本語訳を掲載するよう努めておりますが、編集作業に伴うタイム・ラグが生じている場合もあります。ご利用に際しては、最新版(英語版)の内容をご確認ください。

